

誰一人取り残さない 点字翻訳ボランティアグループわかば会

「わかば会」は、点字への翻訳を通して、視覚障がい者に社会参加と活躍の機会を届けています。今月は、わかば会の活動から、障がい者の人権問題について考えます。

わかば会代表 上野清乃さん 「知る権利を保障するために」

わかば会は、広報八女などの墨字(※1)で書かれたものを点字に翻訳し、視覚障がい者に届ける活動を行っています。社会福祉協議会で行われた点字教室の受講者が、昭和63年に立ち上げました。現在29名の会員が、月に数回、主に八女市社会福祉会館で活動を行っています。翻訳作業は

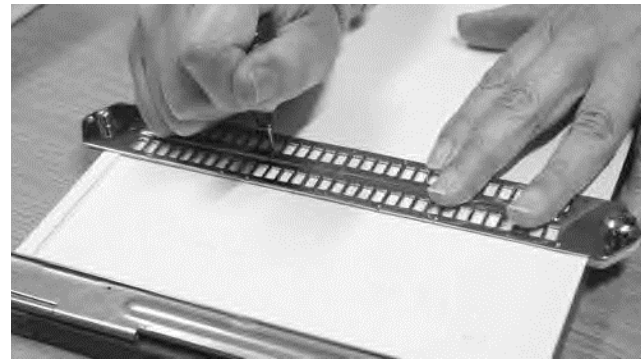
パソコンを使用しますが、自動で翻訳ができるわけではありません。点字表記特有のルール(※2)に基づいて文章を書き直し、冊子にまとめます。広報八女、議会だより、社協だよりや選挙案内のほか、生活に必要な地域の情報を、早く正確に届けることを心がけています。

「わかば会による点字印刷物の利用者に向いました」

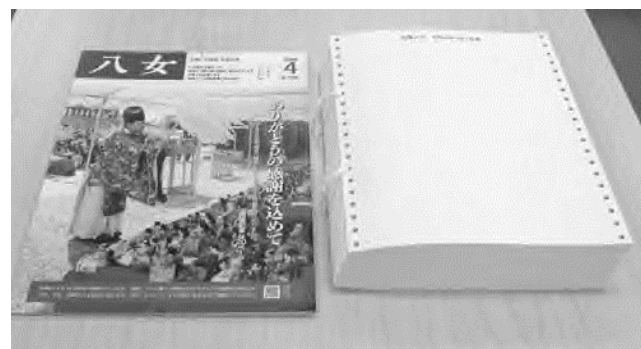
おぼえてみよう! 五十音(凸面、読み手側)

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	す	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ
わ		を		ん

- ①④ ←このように、左上から順に6つの点を使用し、
- ②⑤ 五十音は、母音と子音の組み合わせからなります。
- ③⑥ 凸を●で表記しています。



以前は点字盤を使って一文字ずつ翻訳をしていました。裏面の右側から書き、読むときは裏返して左から読みます。



28ページの広報八女1冊を翻訳すると、162ページにも及びます。

のが現状です。

誰もが幸せに生きられる社会へ

わかば会の活動や点字印刷物は、視覚障がい者が社会に参加し、豊かな日常を送るために、なくてはならないものです。平成28年4月に施行された障害者差別解消法では、障害は本人の問題ではなく、社会の側にあり、その障害を取り除くことを私たちに求めています。使う人に配慮した環境の整備と、困っている人を見かけたら声をかけて助け合うこと。この両方で、誰もが幸せに生きられる社会を実現していきましょう。

※1…点字に対しての活字のこと。
 ※2…点字では、「砂糖(さとう)」は「さとー」、「これは」は「これわ」など、読み方のとおりを表します。